

(資料7) サンプル調査における年代別相違の出現頻度等

	年	頁数(量)	照合難易	ICT適合	相違の出現頻度	裁判例1件当たりの相違の数の割合
手書き	S23～S24	5,305	難	×	100.0%	4.667
縦書き	S25～S56	125,213	中	△	78.1%	4.959
	S57～S63	20,599	中	△	57.1%	1.200
	H1～H12	45,798	中	△	33.3%	1.000
横書き	H13～H15	9,583	易	○	33.3%	0.250
	H16～H29	61,276	易	○	0.0%	0.000

267,774

- ・ 縦書きの期間について、フレーズや単語の脱落が見られた昭和56年までと昭和57年以降を分けて分析した。
- ・ また、縦書きの期間について、昭和と平成についても分けて分析した。
- ・ 「相違の出現頻度」は、1箇所でも相違が認められた裁判例の数を当該期間(年数)で除した割合を示す。
- ・ 「裁判例1件当たりの相違の数の割合」は、当該期間の裁判例において発見された相違の数を、当該期間の裁判例の数(判例集、ウェブサイトの両方を調査した場合は2件と数える。)で除した割合を示す。